

設楽陸

架空の歴史ノート ゲノム新世紀 世界再建の時

2016

コクヨのノートに鉛筆、色鉛筆、ペン、アクリル、ボールペン

ゲノムドローイング

2016

クラフト紙に鉛筆、色鉛筆、ペン

僕はこのお話を頂いた時、生物学や遺伝子の研究テーマと妄想ノート（別名：中二病ノート、黒歴史ノート）でコラボしてよと言われ、割とすんなりと受け入れました。それは単純におもしろいと思ったからです。後、架空の歴史ノートが2年以上描けてなかったのをこれを機会に近世から停滞していた架空世界史を遺伝子技術が発達し世界大戦から復興を遂げ人類が統一されながらも様々な問題を抱え続ける近未来の架空時代まで、一気に描き進めよう。つまりリハビリという要素もありました。中学生が思い描く様な妄想の世界観が年齢を重ねるにつれ描けなくなっているのです。31歳になった今、いい歳して妄想ノートを描くのがただただ辛く恥ずかしい...でもそれがこのノートのコンセプト。宮成悠介先生の核内ゲノムの講義を聴いて頭の中で勝手に妄想し拡張した世界。それは中学生の時、歴史の授業を聴いて勝手に違う世界の歴史を妄想してノートに描いていたあの時の様。

ゲノムドローイングはやはり僕は画家という証を示すために描いた作品。DNA 二重螺旋を普段自分が描いているビデオゲームの世界観に落とし込み色鮮やかに大きな巻物のように描きたかった。人類の発達と進化の先に待ち受けているものは謎...それは大地の裂け目のできた深い深い穴の様。